

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 6 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500580

研究課題名（和文） スポーツの意味作用を問い直す

研究課題名（英文） Reconsidering the Significance of Sports

研究代表者

清水 諭（SHIMIZU SATOSHI）

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：40241799

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、沖縄の歴史を踏まえ、沖縄に住まう人々が東京オリンピック（1964 年）、国民体育大会（1973 年・1987 年）、そして高校野球を通して、どのように「沖縄人であること」や「日本国民であること」を構築し、生きてきたのかを描き出すことにある。スポーツの文化的事象は、複雑かつ多面的な意味作用を持っているが、本土（東京）における意味づけは沖縄の抱えている現実の諸問題を忘却させる作用があり、それと異なる沖縄固有の意味解釈について、今後もより深い探求が必要である。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to delineate the way that people living in Okinawa who took part in the Tokyo Olympics(1964), National Athletic Meets(in 1973 and 1987), and high school baseball tournaments have constructed their identities as “Okinawan people” and as “Japanese people.” It is necessary to consider differences in the characteristics held by those from Okinawa as opposed to those from the mainland (Tokyo) when looking at the complex and multifaceted meaning of the cultural phenomenon of sports.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：複合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 スポーツ科学

キーワード：スポーツ社会学

1. 研究開始当初の背景

- (1) これまで、スポーツイベントの様々な政治的意味作用について、清水諭（2004、2007）、Bairner, A. (2001、2005)、Sugden, J. and Bairner, A. (1999)、Hargreaves, J. (1982)らが研究してきた。特に、Bairner は、想像の共同体（Anderson, B. (1983)）

としてのナショナリティ創出プロセスを踏まえて、①言説のレベルでスポーツが喚起すること ②人々が経験する現実 ③歴史と社会的背景（伝統的スポーツを含む）の3側面から分析している。

- (2) 筆者は、文化的パフォーマンス理論をベースにして、テレビ中継の分析、

池田町におけるフィールドワーク、そして日本における野球史を分析し、日本の甲子園野球が「青春」「高校生らしさ（主に「男性」としての）」物語を象徴し、選手に体现させるものであることを明らかにした。（清水諭、甲子園野球のアルケオロジー：スポーツの「物語」・メディア・身体文化、新評論、1998）

- (3) 一方、アジアにおけるスポーツの普及と受容に関する研究において、Mangan, J. A. は近代スポーツのグローバル化が帝国主義、ナショナリズム、そして消費主義の3側面から形成されてきたと指摘している。彼は、アジアにおける近代スポーツの受容と我有化が近代社会化との「二重らせん」であると述べた。
- (4) 以上から、アジアにおける特定の地域と時代におけるスポーツ（イベント）の受容について、ナショナルイデオロギイ構築のプロセスに焦点を当て、スポーツの意味作用を問うことは、重要な問題であるといえる。

2. 研究の目的

- (1) 研究の目的は、具体的な時代と地域を、特定した上で、人々にとってのスポーツイベントの意味作用を分析することである。特に、沖縄とそこで暮らす人々の歴史を踏まえ、沖縄に住まう人々が東京オリンピック（1964年）、国民体育大会（1973年・1987年）、そして高校野球を通して、どのように「沖縄人であること」「日本国民であること」を構築し、生きてきたのか、その文化的社会的諸相を探ることが課題である。
- (2) また、東京オリンピックや高校野球の意味作用を考察する際、沖縄と東京との差異がどのように構築されてきたのか、すなわち、都市東京の位置づけとの関係の上で、沖縄と沖縄の人々がどのように捉えられてきたのかを明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) 沖縄の文化と社会に関する歴史書、日の丸・君が代などに関する日本政府と沖縄に関する著作物・資料、さらに東アジアにおける沖縄の政治的位置などに関する著作物・資料を収集（沖縄県立公文書館、イェール大学図書館での調査を含む）し、分析・考察を行った。
- (2) 特に、東京オリンピック（1964年）時の沖縄における聖火リレーに関す

る記録写真、若夏国体（1973年）と海邦国体（1987年）に関する記録映像については、沖縄県立公文書館の豊見山和美主任専門員の協力を得て、視聴し、分析・考察を行った。

- (3) 沖縄における高校野球の意味作用に関しては、沖縄における高校野球の歴史に関する著作物・資料の収集に加え、沖縄における高校野球関係者に対するインタビュー調査を行った。

4. 研究成果

- (1) オリンピックと都市東京の構築について（学会発表②～⑤；図書①、④）
 - ① 1940年－1964年－2016年の東京オリンピック招致活動と開催について歴史的に分析、考察した結果、IOCのオリンピック運動の理念からは距離を置いて、日本独自のコンテクストで理念を掲げ、都市東京の首長が前面に立って招致を誘導してきたことが分かった。1964年オリンピックは、戦災復興計画の上に首都東京を含めた首都圏構想を実現するための整備計画がオリンピックを契機として一気に成し遂げられた。
 - ② 都市東京は、経済成長と開発主義一辺倒のイデオロギーを持つ政治家と開発ディベロッパーたちの思惑と戦略が重なり合っ、開発されてきた歴史がある。土地利用の転用に見られる国家的事業を契機とした新たなナショナリズムの想起について考えることが必要である。
 - ③ 経済成長する日本とその首都東京のプレゼンスの強調といった「東京特殊思考」（東京中心主義と開発志向）がオリンピックなどメガ・イベントを契機に再生産されてきていることが分かる。
- (2) 1964年東京オリンピックの沖縄における政治的意味作用について（学会発表②、⑧；図書④）
 - ① 以上のような東京におけるオリンピックの意味と異なり、沖縄における東京オリンピックは、米軍事政権下の沖縄の人々にとって、祖国復帰を希望する政治的意味を大きく持っていたことが分かった。
 - ② 沖縄における聖火リレーは、戦争の記憶とともに、「日本国民であること」を意識化させる意味を持っていたと考えられる。
- (3) 沖縄における2つの国民大会の意味について（学会発表②、⑧；図書④）

- ① 1964年東京オリンピックの沖縄における聖火リレーの際、沿道は日の丸で埋め尽くされ、数多くの人々が日の丸を振ったにも関わらず、1987年海邦国体の際には、「日の丸」「君が代」問題、天皇問題、自衛隊問題などが表面化し、沖縄返還後も変わらない生活を送ってきた沖縄の人々の苦心と、「日の丸」「君が代」の法制化に対する抗議の意志が見られた。
- ② ナショナリティ構築に関する議論は、非常に複雑であり、特定の地域における歴史性を踏まえた上で、捉えられなければならないものであることが再確認された。
- (4) 沖縄における高校野球の意味作用について(雑誌論文①～④)
- ① 日本における野球文化の受容と我有化は、消費主義社会の進展ともなうメディア産業の隆盛と深く関わり、かつ都市構築に伴う大衆文化を創造する企業戦略に影響されてきた。
- ② 戦後沖縄における高校野球は、米軍による基地文化と接点を持ちながら、一方で、本土メディアによる判官鼻肩と「占領地沖縄」が表象化されてきた。この様相は、1970～80年代における沖縄県勢の甲子園における活躍にもかかわらず、再生産され続け、沖縄に住む人々にとっても意識化されていた。
- ③ 沖縄人に対するこうした表象化は、戦争体験とその後の現実的な沖縄の生活状況を忘却させ、覆い隠してしまう作用を持つと考えられる。
- (5) スポーツの文化政治に関する研究について

- ① オリンピック、甲子園野球、国民体育大会などスポーツイベントとメディア、消費社会との関係、及びナショナリティの構築、ナショナリズム、ジェンダーなど文化政治について、新たな題材のもとで、教育を展開することができた。(雑誌論文①～④；学会発表①～⑧；図書①～④)
- ② スポーツとナショナリズム、スポーツと文化政治に関して、一般学生向けに用語解説を行った(図書②)ほか、研究代表者のホームページにおいて情報発信し、国内外の人々との議論及び教育現場に貢献することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① Satoshi Shimizu, *The Significance of Koshien Baseball in Postwar Okinawa: A Representation of "Okinawa"*, *The International Journal of The History of Sport*, 査読有, 2012. (印刷中)
- ② 清水諭, 「スポーツの力」を問い直す, 清水諭 (責任編集) 現代スポーツ評論, 査読無, 第25号, 8-15, 創文企画, 2011.
- ③ 清水諭, メディア環境とスポーツ: 問題提起, 清水諭 (責任編集) 現代スポーツ評論, 査読無, 第22号, 8-15, 創文企画, 2010.
- ④ Satoshi Shimizu, *The Creation of Professional Sports Leagues in Japan: A Cultural History of Human Networks*, *The International Journal of The History of Sport*, 査読有, Vol.27, No.3, 2010, 553-569.

[学会発表] (計8件)

- ① Satoshi Shimizu, Contradictions in the Olympics and Possibility of Olympic Education, 2010 International Conference of the Korean Society for the Study of Physical Education, 2010.11.12, Chuncheon, South Korea.
- ② Satoshi Shimizu, The 1964 Tokyo Olympics and the Nation Building, Seminar of Movement Culture and Sports Politics at University of Southern Denmark, 2010.9.28, Odense, Denmark.
- ③ Satoshi Shimizu, 2016 Tokyo Olympic Bid and 1964 Tokyo as the "Legacy", Korean Society for the Study of History of Sport, World Leisure Congress in Chuncheon 2010, 2010.8.30, Chuncheon, South Korea.
- ④ 清水論, 2016 東京オリンピック招致と「レガシー」としての1964 東京, カルチュラル・タイフーン 2010, 2010.7.4, 駒澤大学 (東京都)
- ⑤ Satoshi Shimizu, Re-invoking the Hinomaru and Nation Building: The Cultural Politics of Japanese Sporting Events, "Anthropology in Troubled Times: Political Mobilization and Grassroots Activism in Recessionary Japan", American Anthropological Association 108th Annual Meeting, 2009.12.6, Philadelphia Marriott, Philadelphia, U.S.A.
- ⑥ Satoshi Shimizu, Cultural politics of Body on Sports and Health, Korean Alliance for Health, Physical Education, Recreation and Dance,

International Sport Science Congress, 2009.8.19, Hanyang University, South Korea.

- ⑦ 清水論, スポーツする身体, あるいは運動する身体を問い直す, カルチュラル・タイフーン 2009, 2009.7.5, 東京外国語大学 (東京都)
- ⑧ Satoshi Shimizu, The 1964 Tokyo Olympics and Politics in East Asia, The 19th Pan-Asian Society of Sports & Physical Education, 2009.4.29, Qian Xi Hotel, Chengdu, China.

[図書] (計4件)

- ① 清水論: なぜオリンピックを東京に招致しようとするのか: オリンピックと東京の1940-1964-2016, 菊幸一 (編) 日本体育協会創世期における体育・スポーツと今日的課題: 嘉納治五郎の成果と今日的課題, 日本体育協会, 2012. (印刷中)
- ② 清水論: スポーツとナショナリズム; カルチュラル・スタディーズ, 井上俊・菊幸一 (編著) よく分かるスポーツ文化論, ミネルヴァ書房, 2011, 40-41; 184-185.
- ③ 清水論: 日本における体操: 体育の展開と嘉納治五郎, 菊幸一 (編) 日本体育協会創世期における体育・スポーツと今日的課題: 嘉納治五郎の成果と今日的課題, 日本体育協会, 2011, 37-54.
- ④ Satoshi Shimizu, Rebuilding the Japanese Nation at the 1964 Tokyo Olympics: The Torch Relay in Okinawa and Tokyo, Kelly, William W. and Susan Brownell (eds.) *The Olympics in East Asia: Nationalism, Regionalism, and Globalism on the Center Stage of*

World Sports, Council on East Asian
Studies, Yale University, 2011, 39-
59.

[その他]
ホームページ等

<http://cafesportandbody.sakura.ne.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 諭 (SHIMIZU SATOSHI)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：40241799